No.73　令和３年新年号

道　南

題字は二上達也９段揮毫

北海道道南会会報
No.73　令和３年新年号

発　行　2021年1月1日
発行所　北海道道南会事務局
連絡所　茨城県取手市西1-6-C-907
TEL&FAX　0297-74-7576
ホームページ
http://hokkaido-dounankai.com/

丑年に願いを込めて

北海道道南会会長　薬袋　泰

新年明けまして
おめでとうございます

皆様お変わりなくお元気に清々しく、新しい丑年の新春をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

令和2年は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、道南会においては2月1日（土）開催の新年総会・懇親会の中止の後は、「ふるさと訪問旅行」の延期、夏季懇親会の中止など恒例の行事がすべて中止となりました。また、不要な外出自粛要請により、常任幹事会は最小限の開催とし、その他の諮問事項はメールにて確認をする事と致しました。10月27日開催の常任幹事会では、最重要課題の新年総会・懇親会の開催について協議しましたが、現在の首都圏の感染状況から判断して先行きの見通しが立たず、ホテルの宴会方法は「新たな生活様式」のガイドラインを参照して、三密を避けるための感染拡大防止に向けた取り組みを実施しており、かかる状況から、出席者数の想定も難しく、また、出席者が高齢である事から開催は難しいと判断し、中止する事としました。

毎年、11月上旬に開催の「顧問相談役会」では、今回は令和3年新年総会・懇親会の開催、役員改選など重要事項の協議の場と考えておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を避けるため、止む無く中止させて頂きました。

道南会の役員も高齢化が進んでおりますが、将来を見据えて役員の若返りと拡充が喫緊の課題であります。常任幹事会で協議の結果、令和3年・4年の役員には、富岡信夫幹事を常任幹事に、新たに幹事として、今井雅子さん、野口晴雄さん、成田きよえさん、柳下五百子さん、和田史郎さんの5名の方にご協力をお願いし、現役員を全員留任として、会の運営に当たりたいと考えております。

北海道ふるさと会連合会をはじめとして、東京かみの国会、東京厚沢部会、東京奥尻島人会、東京北斗会など、各ふるさと会の令和2年2月以降の行事はすべて中止となっており、また、恒例の北海道ふるさと会連合会令和3年新年交礼会も既に中止が決定されております。

令和2年1月初旬、中国・武漢市で新型コロナウイルスの感染が確認されてから、世界各国に感染が拡大し、12月9日現在、世界の累計感染者数は6886万人と発表されておりますが、日本国内の感染者数は169442人。特に、東京都・大阪府・神奈川県・愛知県・北海道・埼玉県・千葉県・兵庫県・福岡県・沖縄県はクラスター（感染集団）感染により感染者数が増大しております。新型コロナウイルスのクラスターが相次いで発生し、医療現場が逼迫している旭川市で12月9日、陸上自衛隊の看護官らが医療支援活動をはじめました。

5人編成の2チームが、「慶友吉田病院」と、重症心身障害者施設「北海道療育園」でそれぞれ約2週間、活動するとしています。感染拡大が早く収まることを願うばかりです。

令和3年も当分の間、この新型コロナウイルスの感染拡大は、まだまだ続くと思われますが、皆様にはもうしばらくの間、マスクの着用、消毒、検温を励行し、「三密」を避け、不要不急の往来を自粛していただき、コロナ禍が早く終息して、笑顔で再会できますことを心待ちにしております。

“五稜星の夢”イルミネーション

函館市便り

函館市長　工藤　壽樹

令和3年の新春を皆様とともにお迎えできますことを心よりお慶び申し上げます。

北海道道南会の皆様におかれましては、昭和35年の創立以来、半世紀を超える長きにわたり、「ふるさと道南」を心の絆として会員相互の交流と親睦を深め、固い結束のもと、幅広い分野において活発な活動と郷土発展への貢献を続けられ、今日のご隆盛を築かれておりますことは、薬袋会長をはじめ歴代会長、役員、会員の皆様の一方ならぬご努力の賜と存じ、心から敬意を表しますとともに、日頃から函館市の発展に特段のご支援、ご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、様々な社会活動が延期や中止、また、自粛され、あらゆる業種に甚大な影響を及ぼし、社会経済は深刻な打撃を受け、これまで経験したことのない局面にさらされるところとなりました。「新しい生活様式」ともに「働き方の新しいスタイル」の実践など、日々の生活に大きな変化が訪れ、一定の制約が伴う暮らしのなか、皆様におかれましては、一致団結し、この難局に立ち向かわれていることと拝察いたします。毎日、最前線でご尽力されている医療や福祉等の従事者の皆様をはじめ、社会経済活動を支えていただいている皆様に敬意を表しますとともに、重ねて心より感謝申し上げます。

当市におきましては、新型コロナウイルス感染症に関する緊急対策として、第5次にわたって補正予算を編成し、感染防止対策と医療提供体制の強化をはじめ、日常生活や事業活動に影響を受けている市民や事業者への支援に取り組んできました。

特に、国内観光客の旅行需要の低迷やインバウンドの入国制限、クルーズ客船寄港数の激減、大規模イベントの中止など、経済・観光分野での影響は極めて大きく、先行きも不透明な状況のなか、宿泊業をはじめ、運輸業、飲食・サービス業、小売業など、多くの業種が厳しい状況に置かれていることから、当市では、冬の観光需要の喚起策として、観光客誘促進キャンペーンを実施することとしました。

キャンペーンの内容は次のとおりとなっています。

（1）宿泊料金助成

・対象

市内の宿泊施設の宿泊料金

・助成額

①宿泊商品

【1人1泊あたり宿泊料金の2分の1相当額】

（上限10、000円、3連泊まで）

〔販売額1人1泊あたり5、000円以上が対象〕

②交通費を含むパッケージ商品

【パッケージ商品1人1泊あたり5、000円】（3連泊まで）

〔販売額10、000円以上が対象〕

・期間：令和3年2月1日（月）から3月31日（水）まで

（2）グルメクーポンの配付

・対象：市内の宿泊施設への宿泊者

・内容：市内の飲食店で利用できるグルメクーポンを1回の宿泊につき1人1セット2、000円分配付

・期間：令和3年1月4日（月）から3月31日（水）まで

（3）冬季特別イベントの開催

・内容

①はこだて週末冬花火

緑の島から各日10分程度の花火の打ち上げ

②はこだて光の万華鏡

基坂：樹木のライトアップなどによる光の演出

元町公園等プロジェクションマッピングやライトアップなど

・期間

①令和3年1月8日（金）から3月27日（土）までの金・土曜日・祝日の前日27日間

②基坂

令和3年1月4日（月）から3月31日（水）までの87日間

②元町公園

令和3年2月5日（金）から3月27日（土）までの金・土曜日・祝日の前日18日間

詳しくは、公式ウェブサイト（https://www.hakodate-winter.com）にてご確認いただけます。URLやQRコードから直接アクセスいただくか、「函館の冬割」にてインターネット検索のうえ、アクセスいただくことも可能です。

函館の冬割
QR コード

これらに加え、定番のイベントとなっている「はこだてイルミネーション」や「函館駅前広場イルミネーション」、「五稜星（ほし）の夢（ゆめ）」も開催しているほか、和とモダンが融合された「湯の川冬の灯り」はモニュメントが新設され、温泉街はより煌びやかな空間が創出されており、感染防止対策を講じながら、お得な割引と屋外で楽しむことができる光のイベントの開催により、冬期間の観光を明るく盛り上げてまいります。

ワーケーション

その他新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワークの普及に伴い、首都圏の企業等をターゲットとして、仕事（Work）と休暇（Vacation）を兼ねて地方へ一定期間滞在するワーケーションのモニタリングツアーを実施しました。当市のワーケーション環境に加えて立地環境等のPRをすることで、ワーケーションのリピーター確保やサテライトオフィスの開設、ひいては企業立地へとつなげてまいりたいと考えています。また、参加者アンケートの分析をもとに、民間企業と連携しながら、当市のワーケーション環境の向上を図ることにより、将来的な移住・企業誘致に結びつけ、新たな「交流人口」および「関係人口」の創出・拡大を図ってまいります。

また、地域一丸となって新型コロナウイルス感染症対策に取り組むため、各方面への注意喚起等も広く行ってまいりました。各事業者へは、感染状況に応じて北海道が設定する警戒ステージの引き上げに合わせ、感染拡大防止に向けた取り組みの要請を行ったほか、観光客へは公式観光情報サイト「はこぶら」を通じ、当市における感染患者の発生状況や観光施設等の感染防止対策、観光関連施設の営業状況など、日々刻々と変化する状況をリアルタイムで発信し続けています。

そのほか病院や高齢者施設へは、従業員の感染対策を徹底するよう要請したほか、渡島総合振興局長に対し、宿泊療養施設の早期開設を要望しました。

このような取り組みにより、感染の拡大は道内の他都市と比較して抑えられている状況にありますが、今後とも、市内の感染状況や社会経済情勢を注視しながら、引き続き、必要な対策を迅速に講じてまいります。

また、観光と並び函館の魅力の一つである「食」を支える水産業においては、イカやサケ、天然昆布などの記録的な不漁などの課題がある一方、漁獲量が増加傾向にあるブリの消費拡大を目指した取り組みが行われています。ブリの魅力を発信するイベント「ブリフェス」が昨年10月に開催されたほか、現在は、道南産のブリの新しい食べ方を提案しようと市内の飲食店などが共同開発した新ご当地メニュー「はこだてブリたれカツ」の提供も行われています。

プリフェス

農業においては、亀尾小学校跡地に酒蔵が建設される予定であり、54年ぶりに函館に日本酒の醸造所が開設されます。２０２１年11月の醸造開始を目指し、主に地元の酒米と水を原料とした地酒を開発するほか、函館工業高等専門学校と酒造会社が酵母や発酵などの共同研究を行う方針であり、１００％函館産の日本酒に期待が集まっています。

引き続き、食によるまちの魅力度の向上を目指すとともに、食産業の振興を図ってまいります。

新年に入り、３月には、函館新外環状道路の全線開通が予定されており、函館新道や函館・江差自動車道との接続によって、函館空港と新函館北斗駅の間のアクセスが飛躍的に向上することはもちろん、道南地域の高速交通ネットワークの充実により、市内における交通混雑の緩和、函館空港へのアクセス向上などが見込まれております。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、世界遺産に登録された場合、縄文文化交流センターなどの来場者が前年度比で約3.2倍に増えることが予測されており、この世界遺産登録の効果を最大化するため、「資産価値の伝達と情報発信」「来訪者受け入れ体制強化」「地域社会との連携」の三つを基本的な方向性と定め、市民や民間団体と連携しながら様々な事業を実施していきます。

また、歴史と景観に配慮したデザイン性の高い美しい町並みを整備する「ガーデンシティ函館」の取り組みにおいて、ウォーターフロントとして親しまれてきた地区では、昨年11月に33年ぶりに金森赤レンガ倉庫群近くにかかる七財橋の全面改修も行われるなど美装化が進められております。３月には、函館港の開放的な眺めが美しいベイエリア一帯の護岸で行われている緑地整備が完了し、観光名所の一層の魅力向上が期待されます。今後とも、住む人や訪れる人が、見て、歩いて、感じて楽しいまちを目指してまいります。

仮囲い撤去後の旧函館区公会堂

国の重要文化財にも指定されております旧函館区公会堂は、耐震補強を含めた大規模な保存修理工事が完了し、４月にリニューアルオープンします。昨年11月から仮囲いが外され、これまで隠れていた外観が見られるようになっておりますが、経年劣化による退色がなくなり、青灰色と黄色にくっきりと塗り分けられた洋館が、冬を迎えた元町に彩りを与えています。

夏には、我が国において、延期となっている東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。このようなときだからこそ、スポーツが与えてくれる夢や感動で、人々の気持ちがひとつになるような世界的な盛り上がりを願っています。

当市も、カナダのホストタウンとして登録され、７月にはバドミントンチームが市内で事前合宿を行います。大会に向けて、これまでにない厳しい状況のなか努力を続けてきた選手の皆さんが集中して調整できるよう市を挙げて応援したいと思います。

また、この東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に,当市提案による東日本エリア（北海道、東北、上越、北陸）新幹線沿線自治体との連携事業「East Japan round trip campaign」を実施します。

連携都市のひとつであるさいたま市では、バスケットボールとサッカーの試合が開催予定であり、特にバスケットボールについては、全試合がさいたま市で開催されることから、バスケットボールの人気が高い米国人をターゲットとしたプロモーションを行い、東日本地域の認知度向上、連携都市への誘客・周遊促進を図ります。

４月１日からは東北６県の自治体や観光関係者、ＪＲ６社などが一体となって行う東北デスティネーションキャンペーンが６ヵ月間にわたって開催されます。当市としても、本キャンペーンに参画し、東北からのアクセスの良さを武器に広域周遊観光を推進し、地域資源の相互利用による相乗的な地域活性化の促進・交流人口の拡大を目指してまいります。

観光プロモーションに関しましては、感染拡大防止の観点から、今年度より従来の対面型に代えて、オンラインイベントへの参加やＷｅｂ、ＳＮＳ等の各種メディアを活用した非接触型のプロモーションを中心に実施してきましたが、今後につきましても、新たなニーズの把握に努め、デジタル時代に素早く対応してまいります。

新型コロナウイルス感染症の影響により、未だかつて経験したことのない困難な状況にありますが、今後におきましても、市民の皆様と心をひとつにし、「新たな日常」をつくりあげていくとともに、誰もが生き生きと幸せを実感しながら住み続けたくなるまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、北海道道南会の皆様には、ますますのご支援ご協力をくださいますようお願い申し上げます。

結びにあたり、北海道道南会のさらなるご隆盛と会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

函館人物誌　番外編
函館とアイヌ・その他

道南会会員　沢株　正始
幸小学校出身

相かわらずコロナ騒動で明け暮れする毎日ですが、近ごろ「ウポポイ」という見慣れない言葉が新聞やネット上で見られるようになりました。ご存知の方も多いと思いますが、「民族共生象徴空間」を表し、アイヌ文化復興の拠点として昨年七月に北海道白老町に設けられたもので、国立アイヌ民族博物館がその中核となります。北海道先住民の苦難の歴史を紹介することだけでなく、アイヌ民族の今の姿を正しく知ってもらおうというのが重要な役割です。

北海道アイヌの居住地といえば、とくに明治以降ではどうしても道東、道央部が主だっており、私たち道南人にはやや縁遠いイメージがあります。古くは樺太、千島から北海道全域に広く分布していましたが、道南地域のアイヌについての言及はあまりなかったようです。

しかし、かつては渡島・桧山あたりにまで広くアイヌの分布はあり、地名や古い遺構のあとにその痕跡は残されています。

これまでにでも、函館におけるアイヌ文化の関わりとしては、たとえば函館の古名「ウスケシ」はアイヌ語に由来するとか、立待岬や亀田の古名あるいは志海苔（しのり）や椴法華（とどほっけ）の名はアイヌ語由来であるなど、地名に関しての諸説がありました。

最近になって少数ながら地元の研究者によって、アイヌ文化に関する研究会やシンポジウムがもたれて、道南地区のアイヌ文化の発掘が行われるようになり、知られざる事跡や遺構などが新たに見つかったりしています。例えば２０１３年には、函館アイヌ文化研究室主催のシンポジウム「北海道南部のアイヌ文化を探る」が開かれ、４人の研究者がアイヌ語、アイヌ文化だけでなく、古文献からアイヌ居住の実態を読み取ったり、現代の観光におけるアイヌの役割の変化などを報告しています。

ジョン・バチェラー

明治期の函館には、居留外国人が活躍していたこともあって、その遺産が建築物として多く残されています。しかし戦争や災害などの結果、消滅した遺物も少なくありません。その一つに「アイヌ学校（愛隣学校）」がありました。

中世にまで遡るキリスト教の布教活動は、異端取締りの厳しかった江戸時代を乗り越えると活発な布教活動が再開されました。函館でも各派が慈善活動に力を入れ、聖公教会（イギリスのアングリカン・チャーチ）はとくにアイヌの伝道活動に力をいれていました。すでに札幌で伝道活動に力をいれていたジョン・バチェラーは、当時公教育から見捨てられていたアイヌの教育のために愛隣学校を幌別につくります。この施設ができるまでにはいろいろ紆余曲折がありましたが、当所の私設の「相愛学校」から「愛隣学校」として道庁から正式に認可を受けたのは明治21年８月のことです。

ネトルシップ

しかしこの学校は日英修好条約違反という理由で、明治25年に閉鎖されます。そしてその代りとして函館に「愛隣学校」が設けられました。当初は元町の聖公会聖堂の仮設食堂内に作られ、翌年、谷地頭に校舎が新設されます。同じ聖公会の宣教師・ネトルシップが校長をつとめ、明治37、38年頃、廃校となるまで20名前後の生徒が学んでいました。このネトルシップという人は、生没年も含めてよく分からないところが多いのですが、函館在住時期を含め、夫妻家族ともども世界各地に足跡を残しており、大変興味深い人物と思われますが、この文の主題を離れてしまうので、以下は省略します。詳しくはネットの「くりホンレビュー」をみて下さい。

ネトルシップ師を囲むアイヌ学校の子どもたち

函館市立図書館初代館長、岡田健蔵氏はこの件を早くに取り上げており、近代アイヌ教育史上、注目すべき学校であったと言っていますが（『函館市史』通説篇第二巻）、より詳しい事情を北海道アイヌ民族文化研究センターの小川正人氏が２００９年に調べて発表されています（「函館と

近代アイヌ教育史―谷地頭のアイヌ学校の歴史から」)。

なお、このネトルシップは、当時の中学生に野球競技を教えたり、ホッケー競技を市民に知らせたりして、函館の運動界にとって忘れられない功労者だったといわれましたが、某新聞が官林盗伐事件として彼に対する攻撃記事を連載したため、真偽のほどはともかく、函館がいやになってアメリカに引き上げたというようなことも伝えられたようです。

ところで感染症との関わりでいえば、北海道のアイヌも昔から多くの伝染病で被害を被っています。北大医学部教授皆川氏によれば、アイヌ民族の人口は1700年代には2万人以上あったものの、その後増加することはなく、天然痘や麻疹が頻発し、梅毒は子孫の誕生を妨げました。もっとも多かったのは結核で、記録に残る最初の犠牲者は1471年のものとされています。有名なシャクシャインの蜂起(1669年)のきっかけは、使者が天然痘で死んだことでした。病気の多くは和人がもたらしたもので、アイヌ民族はそれ以上に大きな犠牲を払わせられたのです。

話は少し飛躍しますが、アイヌ民族の不幸は病気だけでなく、「アイヌ勘定」といわれた和人との交易における不当取引の常態化が輪をかけたことはすでに指摘されています。手を替え品を替えの取引上のゴマカシは常態で、飲酒習慣のない彼らを酔わせてだましたり、時に腕づくの強奪もあり、やりたい放題の搾取だったと、記録にあります。

もっとも、こんな話は南米インカをはじめ世界の植民地史の中には無数にありました。中国人に阿片の習慣を覚えさせて、土地や財産を略取し、中国をどうしようもない無能な国にして、挙句の果ては広大な租借地により莫大な収益を上げたのは当時の大英帝国をはじめ、列強と称された欧州諸国でした。99年契約の香港を一世紀後に返還した結果、超大国にのし上がった眠れる国・中国に予想もできない反撃をくらって、彼の地の人たちは混乱に陥っています。アフリカに沢山の植民地を持ったフランスは、同化政策によって独立後の各地から移民を受け入れざるをえなくなったものの、予想もできないイスラム諸国の反撃をくらい、先鋭化したテロが市民を犠牲に巻き込んでいます。彼らには9・11テロと同じく、はるか昔の十字軍遠征に対する復讐の意識もあるとか。

話が飛躍しすぎましたが、温和なイメージのアイヌも、かつてはたび重なる和人の暴力に対して、名高いコシャマインの乱をはじめ大規模な抵抗を試みたこともありました。しかし、そんな時代を経て、かつては批判されもした観光産業との共生を新たな視野で展望しながら、よりよく生き残るための道を探ろうとしています。「ウポポイ空間」にはそのような多様な可能性への期待が込められていると思いますが、長く苦しかった時代の記憶は完全に解消されたのでしょうか。

コロナ・ウイルスがなかなか消えてくれません。20世紀初頭、世界的規模で猛威をふるった「スペイン風邪」は2年間の間に3波の流行があり、世界全体で一億人に近い死者があったと推測されています。それから一世紀以上たった今、グローバリズムといわれる地球環境の狭隘化が、感染の広がりを途方もなく早めてきているだけでなく、政治的紛争や宗教上の理由による弾圧が収まらない地域では、実態も分からないまま犠牲者の増加を抑えられない状況が続いているようです。

日本国内でも気温の低下に伴って第3波とよばれる感染増がじわじわと進んでいますが、政府の対処策の乱れが気になります(11月末現在)。まったく新しい事態であるという認識が、官僚主導のいまの政府の対応には感じられないと言ったら言い過ぎでしょうか。

一世紀以上も前、ドイツの政治状況を問題に感じたマックス・ウエーバーは、人類の未来に官僚支配の合理主義が行きつく閉塞状況を予測し、これに対する希望の光をアメリカ合衆国の未来に求めようとしました。第2次大戦をはさんで超大国となったアメリカは、冷戦を乗り越え、凋落しつつあるヨーロッパを尻目に、今や眠りからさめた中華帝国に対峙できる唯一の国であることを自負しています。しかし、南北戦争の負の遺産は根深く、アメリカ・インディアンから土地を奪い、黒人奴隷の犠牲のうえに成り立ったアメリカ経済の根底に積もり積もった矛盾と混乱を大統領選挙においてさらけ出してしまいました。これぞ民主主義の真髄だという皮肉な見方もありますが、過剰な人口をかかえた地球においては、もっとも心配な種のひとつでもあります

遠い東の国の小さな空間「ウポポイ」が、今の世界の混乱状況にたいし、全く新たな希望と展望をもたらしてくれるかもしれない、と思いたい昨今です。

ウポポイ

東京弥生会で語り合ったこと

道南会会員　森本　貞子
ノンフィクション作家

東京弥生会は、東京在住で、函館の弥生小学校を卒業した方々の会で、会長は元王子製紙株式会社副社長の和田貞一氏であった。私の母・冠木みつも夫の森本良平も弥生の卒業生で、月一回の会合をとても楽しみにしていた。もう30年程以前のことではあるけれど素晴らしい会であった。実は、ある日、会長の和田氏から電話がかかってきた。折り悪く夫の森本は不在で私が電話をお受けしたので「弥生会はとても楽しい会だそうですね」と申し上げたところ、「ではあなたもご出席されたらいい」と。「でも私、函館生まれですけど弥生小学校の卒業生ではないのですけれど」と遠慮がちに申し上げたところ「そんなことお構いなし。函館人なら歓迎です」とおっしゃって下さったので、それからは母と夫と共に出席することになった。

当初、会場は丸の内の経団連会館であったが、程なく銀座の松屋デパート裏の「王子製紙関連のビル」の中のレストランで食事を楽しみながら、会員十数名が、フリートーキングの気楽で楽しい雰囲気の会であった。ある時、私の母は「実は、かの有名な作家の久米正雄氏の奥様・艶子夫人と私は、弥生小学校の同級生で、ご一緒に庁立函館女学校（現・西高）に入学。しかも同級生だったのですのよ。ところが、ご実家の海漕問屋が倒産してしまって、奥野艶子さんは女学校を中退され、東京の新橋で芸妓に。お座敷で会ったのが久米正雄先生。艶子さんは大層な美人なので、一目惚れとの噂で結婚なさったのですのよ」と。その話に会員はざわめき、私も初めて聞いた話なのでびっくり。久米氏は長野県出身で東大卒。最初「新思潮」同人として純文学でのご活躍だったが、後に通俗小説家として「破船」などで有名だった、などと思い浮かべていた。すると、今度は大島夫人が母の話を継いで、「その久米夫人・艶子さんの妹の奥野悦子さんは、やはり作家の永井龍夫氏夫人となられたのですのよ。とても美しい人ですから」と。並みいる方たちは驚きの声。私もまた驚いた。つい先日、永井龍夫氏から夫の許に葉書が届いてるのを知っていたからである。やはり夫の森本もそのことを思い浮かべたらしく、「実は、つい先日その作家の永井氏よりご連絡いただいているのですよ。驚いたなあ」と。「次の話は、函館には直接関係はないかも知れませんが、北海道にはいささか関わりがありますし、興味深い話だから語ることにしますね」と、「実は私、毎週1回産経新聞の『コラム』に随筆を執筆しているのです。そこに執筆したのは今回芥川賞を受賞なさった池田満寿夫氏（1977年上期・第77回受賞）の受賞作〝エーゲ海に捧ぐ〟の件なのですけれど、その作の題名は有名な彫刻家の木内克先生の代表作〝エーゲ海に捧ぐ〟からなのですよ。実は私の娘が木内先生のご子息・木内岬先生の弟子なものですから、私共一家と木内克、岬両先生とも親しくしておりまして、木内先生の弟子たちは池田氏が無断で〝エーゲ海に捧ぐ〟の題名借用は失礼では？と。木内克先生の代表作の同名の裸婦像は水戸美術館に展示されていて、なお、木内克先生は北海道では丹頂鶴に魅せられ、その彫刻像は旭川美術館に展示されているのです。画家である池田氏は〝エーゲ海に捧ぐ〟の代表作を知らないはずはないのではと。そのようなことをコラムに書きましたところ、やはり週1回そのコラムに執筆されていた永井氏から『知らなかった』との葉書を頂いたのですよ。驚いたなあ」と夫の森本の話であった。出席者の方たちは口々に「本当に驚くばかりのお話ね」などと語り合っていた。

芥川賞受賞・池田満寿夫氏

永井夫人の悦子さんの話をなさった大島夫人はまた「実は奥野家は私の実家でして、実家の叔母の奥野勝子は明治末に日本で初めて時事新報社で『ミス日本』の選考があった際に第一等になったのは元函館市長令嬢の末広ヒロ子嬢。その時、第三等になったのが奥野勝子なのですのよ。賞品としてルビー入りダイヤモンド指輪を頂きまして、まだそれが実家にあるはずです」と。私はかつて末広ヒロ子嬢が日本で初めての「ミス日本」に当選した件についてはエッセイを執筆したことがあるので、驚いてしまった。三等のことは知らなかったので。

私は昔、東京での学生生活を話しながら、函館の祖父母の優しさが忘れられず、毎年、夏、冬の休日は総て函館で過ごしていたので、結婚して初めて東京の夏の暑さを知って、その猛烈な暑さに辟易してしまった。それだけにあの夏の日の懐かしい函館銀座の想い出を語った。

「函館の夏の夕暮れ、いつも祖父との散歩に函館銀座に。私、実は忘れられない看板があるのよ。それは『武蔵野のメメ子』の看板なの。そのメメ子ちゃんはこけし人形だけれど片目をつぶってウインクしているのよ。その愛らしいことといったら、たまらないの。今も心の中に鮮やかに蘇る愛らしさ。それを眺めてから甘い氷小豆を一杯、甘味屋さんで楽しんだのよ。十字街の『丸安』の果物屋さんには、昔東京にはなかった西洋梨（現在のラ・フランス）が幾つも紐でくくられて、つり下げられていたわ。電車通りには洋服生地を売る『いさみや』があって、祖母は東京上野の〝いさみや〟の支店だけれど東北地方にはなくて、東京から函館へとモダンさがひとっ飛びに渡ってきたのよ、と語っていました。どれも懐かしい想い出なのよ。総て幼い日の夏の函館の楽しさなのですのよ」と。

函館銀座通り

夫の森本はまた「そうそう忘れられないのは昭和5年の駒ヶ岳の爆発。その時、13歳で兄と二人で八幡坂の上まで行くと爆発の様子が函館湾を越えて見渡せるんです。ものすごい爆発は大がかりな花火以上。空を焦がすその火花に驚いていると、後から爆発音が聞こえてくる。更に空気が押されて振動するんですよ。成人した後、火山や地震の研究者になるとは全くその時は考えてもいなかった」と。私は5歳で青柳町の家で、夜中に起こされ、母が「二度と見ることが出来ないから」と、私を無理に物干し台のある2階へ。やっと階段を昇ってみた駒ヶ岳の爆発の火柱のものすごすさには驚くばかりの5歳の幼い日のことを思い出していた。

北海道駒ヶ岳

なお、函館在住の方で弥生小学校の卒業生が上京なさると、会長の和田氏は喜んで出席なさるようにと。それである日、東京弥生会に出席なさったのが、深瀬内科医院長。氏は、私の夫と小学校も庁立函館中学校（現・中部高校）も同級生であっただけに森本は大喜び。深瀬氏のご先祖は幕末の函館で大活躍された深瀬洋春医師。深瀬氏は「実は私、東北大学医学部在学の際、かの有名な島崎藤村への経済的な支援を惜しまなかった神津猛氏のご子息、神津康雄氏とは同級生なのですよ。神津家は信州の大資産家のようですね」と語られたので、私は驚くばかりであった。ちょうど私は藤村夫人・冬子について執筆中だったので、神津家へのご紹介をお願いすることになったのである。その思わぬご縁に感謝したのであった。

なお、何時頃のことだったのか会長の和田氏のお話にも驚くばかりだった。和田氏は「実は退職後のことですけれど、米国に出掛ける直前、所用で函館に行った際、函館ご出身の天野芳太郎氏は函館図書館で猛勉強され、当時の館長・岡田健蔵氏にも驚かれたほどの熱心さだったそうですが成長された後、30歳でペルーに渡り、大成功してペルーで有名人となられた、と聞いたのですよ。それで興味深々津々となりまして、米国を経てペルーの首都リマに行き、天野氏に会いました。氏は、花屋経営のかたわら、紅茶のインスタント用の特別な紙袋の発明に成功し、その紙の特許を世界中で取ったことで大金持ちに。私はペルーでは大変な優遇をしていただいた。何故ペルーのリマに永住を決意なさったのかを伺ったところ、ペルー人が生活そのものをエンジョイする風習に魅せられた、と語っておられたのですよ。確かにそのペルーの風習を私も実感しましたね。そして、天野氏は函館出身の私をとてもとても懐かしがっておられましたよ。しかも彼は自費でインディオ（現地人）が集めていた紀元前に作られた古代織物の美術館まで建設してしまったのですから驚きました」と感慨深げに語られた。

会員の誰もがその珍しい話にただ感動するばかりであった。

しかも、その数年後、私の夫が大地震の調査のために日本国の代表としてペルーで発生したチンボテ地方の大地震対策を依頼され、首都リマを中心に対応策に当たることになるとはその頃思ってもいなかった。夫は後に和田氏のかつてのペルーでのお話は大層参考になった、と語っていた。

私は高齢となった現在でも東京弥生会での楽しく有意義であった会員たちの話題を懐かしく思い浮かべて、執筆の参考にさせて頂くことの多さをも実感しているのである。

新年を迎えて

戸田中央医科グループ会長
中村　隆俊

お健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、全世界に新型コロナウイルス感染症の脅威をもたらし、人的被害だけでなく経済にも大きな打撃を与え、生活様式までも大きく変化しコロナに翻弄された一年でした。私たち医療界では、感染拡大で一時的に医療崩壊を招きかねない逼迫した事態となり、当グループにおきましても、ＰＰＥ製品（Personal Protective Equipment・ガウンや手袋、マスク、キャップ、エプロン、シューカバー、フェイスシールド、ゴーグルなど）の不足で、安定した供給が行えず、そのために手術の延期、また外来受診を控える患者様、健診者の急減と経営の悪化にもつながりました。患者様からすれば、持病の悪化、病気の発見が手遅れで重症化を招くなど社会問題となりますが、「助かる命が助からない」。これはあってはならず、人の命を守ることが私たちの社会的使命であります。重大局面で職員一人ひとりが感染予防への高い意識と覚悟で献身的に取り組んでおります。

そんな中、多くの取引先や患者様から物資の寄付、また地域の人々から応援エールが届き、温かい気持ちに包んでいただきました。長期化する見えないコロナと闘う職員にとって、大きな励みとなり、患者様のために頑張る気概を呼び起こしてもらえております。

私自身、高齢者ハイリスクグループに属しておりますから、職員たちに余計な心配をかけないよう新しい試みはオンライン会議への参加です。その場の雰囲気に応じた質疑など臨場感や一体感に欠けるのは否めませんが何より移動もなく安全に会議に参加でき満足しております。

今年はこのコロナ禍の果てに、世の中はどう変化していくのか、人の価値観や生活が変わり、どんな世界が待っているのか、未来へ禍根を残さないよう、人々が試される年でもあります。大切なことは心のエネルギーを強く持ち続けることです。コロナは悪いことばかりではありません。むしろ日本に変革のチャンスが訪ずれています。

皆様にとって心のエネルギーが上昇する今年の楽しみはなんでしょうか。いくつか挙げてください。些細な楽しみでもいいです。私はふたつあります。ひとつは、当会60周年記念旅行が私の故郷せたな町となり、久しぶりに帰郷を予定していることです。昨年の新年会に、せたな町の高橋町長がご臨席され、そこで、日本初の女性医師、荻野吟子の生涯を映画化した「一粒の麦」のご紹介をされたと伺っております。荻野吟子は埼玉県熊谷市で生誕され、埼玉三偉人のひとりでもあります。荻野吟子は明治時代、不屈の精神で女性初の医師となり、せたなで開業されました。私はせたなで生まれ、埼玉で開業しておりますので感慨深いものがあります。せたなには荻野吟子資料館がありますので、是非ご案内したいところのひとつです。この映画の中で俳優・柄本明さんが私の祖父役で登場しておりますので機会があればご鑑賞ください。

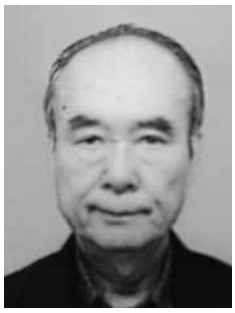
そしてもうひとつの楽しみは令和６年に印新される新一万円札の肖像でもある渋沢栄一の生涯が２月14日からＮＨＫの大河ドラマ「青天をつけ衝け」が始まることです。渋沢栄一も埼玉県三偉人のひとりです。近代日本の産業経済の礎を築き多くの企業設立に携わる一方で福祉や教育など社会事業にも尽力した渋沢栄一の精神を今に受け継ぐとして３年前に埼玉県より渋沢栄一賞を受賞の栄に浴しました。生涯を通じて改革し続けた熱きリーダー渋沢栄一のドラマを心待ちにしております。皆様も楽しみをもって一年を過ごしていただきたいと思います（なお、三偉人のもうお一人は、埼玉県本庄市出身で盲目の国学者・塙保己一氏）。

埼玉県は今年県政１５０年を迎えます。これを契機に多くの方に埼玉県の魅力を発見していただけるチャンスでもあります。皆様にもコロナ対策をして埼玉県にも訪れてほしいです。その際には当院にも是非お立ち寄りください。

コロナは私たちに厳しい現実を突きつけましたが、いつの日かコロナのおかげで大きく変わることができたと感謝できる日が必ず到来するように思います。新年にあたり皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

道南会の縁に想う

朝倉　敏夫



拙宅の玄関を入るとすぐ目につくところに、「和顔愛語」と書いた色紙が飾ってある。道南会の縁で知遇を得た松前出身の書家、金子鷗亭さんによる書である。

道南会というものの存在を私が知ったのが、いつだったか、記憶は定かではないのだが、１９８０年代半ばすぎだったのではないかと思う。私は当時、読売新聞政治部記者として自民党の代議士、河本敏夫という政治家もカバーしていた。河本氏は閣僚経験も豊富で、１９７８年の自民党総裁予備選にも出馬した実力者だったが、他方では、三光汽船という海運会社の実質的オーナーということでも知られていた。

その三光汽船が倒産し、会社更生法を申請した。戦後最大の倒産などと騒がれ、河本氏の政治生命にも影響する話なので、政治部記者としても無関心ではいられなかった。それで会社更生法下で三光汽船の管財人に選ばれた経済同友会の専務理事、山下静一さんを訪ねた。その山下さんが道南会の会長を務めていたのである。

話がどう転がって私が函館出身であることに触れることになったのかは思い出せないが、山下さんは同郷の記者が訪ねてきたことを喜んで、道南会へ入れてくれた。

その後、山下さんは、機会があるとよく郷里出身の財界人の集まりなどに誘ってくれた。政界、官界の取材に明け暮れていた私にとって、そうした日常の取材では縁のない、取材を離れた〝異世界〟の方々と交わりは、とても楽しい場であった。

金子鷗亭さんと出会ったのも、そうした場の一つでのことだった。金子さんが文化勲章を授与された後だったから、１９９０年代の初めのころだったのだろうと思う。

毎年８月15日に日本武道館で開かれる政府主催「全国戦没者追悼式」の標柱を書いていたのは金子さんだったと知った。「太い柱を跨いだ姿勢であれを書くのは体力を要するので、毎年、３カ月くらい前から朝歩いて足腰を鍛えている」と話していたのが、強く記憶に残っている。

出会いといえば、日本将棋連盟会長だった二上達也さんから、「君、読売新聞で政治部にいた外山四郎を知っているかね」と聞かれたのには驚いた。外山四郎さんは、私の政治部新人時代、政治記事文章道を仕込んでくれた師匠だった大先輩で、恩人ともいえる人だ。父親が日魯漁業勤務で各地を転任したが、函館在勤中に、息子の四郎さんは旧制函館中学で二上さんと同級だったのである。「世の中、狭いものだなァ」と、改めて感じ入ったものだった。

田中清玄という人の謦咳に接することになったのも、道南会を通じてである。私は田中角栄という政治家に接してすぐに「なるほどこの人は天才なんだなァ」と思ったものだった。田中清玄さんも、世上、毀誉褒貶の多い人だったが、なにか天才的な懐の深いものを感じさせるところのある人だった。

まだまだ道南会を通じて忘れがたくなった人はたくさんいるのだが、紙幅の都合上、この辺で一区切りとしたい。

（読売新聞東京本社論説顧問）

青函トンネルと弟

本間　和吉

弟・達雄は、私と同様、函館市立万年橋小・大川中・函館工業高（土木科）と学び、昭和42年４月から日本鉄道建設公団に入職。以来、青函トンネル工事に従事し、１９９８年・平成10年３月のトンネルの完成（開業）までの22年間をトンネル工事に関わった。

本格的な工事着工は昭和39年１月からであるから着工初期から世紀の難工事に従事していたことになる。

トンネルの総延長は53キロ８５０メートル。その内、海底部は延長23キロ３００メートルで、津軽海峡水深１４０メートル、更に海底下１００メートルにトンネルを掘削する巨大工事である。

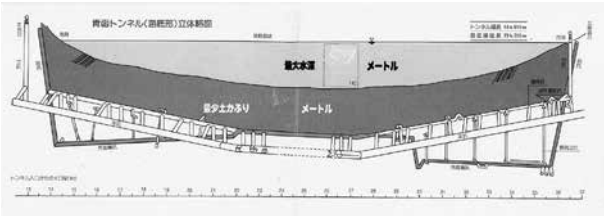
掘削するトンネルだけでも斜抗、先進導坑、立坑、本坑、換気立坑、連絡抗等々、様々なトンネルを掘削する難工事で、工期24年、総工費６８９０億円、働いた人数延べ１３５０万人であった。

手元に「青函トンネル先進導坑貫通記念」ハガキがある。それによると北海道と本州間が開通したのは昭和58年１月27日。日本の歴史に残る日で、弟が公団入職16年後のことであった。

私はトンネル工事中の先端の掘削現場を見学したことがある。弟が担当する現場であった。ほんの数十人で掘削作業をしているのには驚いた記憶がある。また、弟の同僚から、私に向かって「弟さんですか？」と聞かれたことを思い出す。

トンネル工事を担当しているうちに弟の方が私よりはるかに逞しくなりトンネル屋として貫禄があったと思っている。もう一つの思い出は、トンネル工事の見学に行った時に、アメリカの宇宙船・アポロ11号が人類史上初めて月面に着地した時を、竜飛にあった工事現場の寄宿舎の食堂のテレビでみた。方や地底での世紀の大工事。方や遠い宇宙での出来事に同時に立ち会えたこと。時に昭和44年７月21日であった。

弟と完成した青函トンネルを一緒に乗車したことがある。平成29年４月20日のことで、私の家族と一緒に、97歳で亡くなった母の納骨に行くときであった。トンネルを通過中は、弟がお骨を抱え、得意げな顔をして車窓を眺めていたことを思い出す。きっと工事に



青函トンネル立体図

携わった22年間のことを思い出し、母に語っていたのだろう。

その弟も平成30年7月25日、急な病で逝ってしまった。享年70歳。青函トンネル、山梨リニア、北陸新幹線等々、トンネル工事に捧げたトンネルマンの人生であった。

函館と月光仮面とおふくろさん

富岡　信夫

表題の共通の人物は、函館出身の川内康範さんです（以下康範先生とします）。

本年２０２０年は生誕１００年の年になります。思い出と共に振り返ってみます。

【川内康範さんのこと】

作家・作詞家・脚本家・評論家など、いくつかの顔を持っている。

１９２０年（大正９年）。小学校卒業後、様々な職業に就きながら独学。上京後、作家デビュー。以後、テレビ・映画「月光仮面」「七色仮面」の原作・脚本。アニメ「日本昔ばなし」監修。作詞家として「君こそわが命」「誰よりも君を愛す」「おふくろさん」など数々のヒット曲を世に送り出しています。歴代首相のブレーンも務めた。勲四等瑞宝章。

【月光仮面のこと】

１９５９年（昭和34年）、日本の子供たちを一躍画面の前に引き付け、〝魅了した〟永遠のヒーロー「月光仮面」の生みの親が康範先生です。戦後誕生した日本のヒーローの元祖と言われています。

月光仮面

実家は法華宗の住職ながら寺院をもたずいつも生活は苦しかった。その当時の函館は火事が多く、大火の街だった。ホームレスの集落へ出向き、「お供え物のお米や果物」を持って、「頑張ってね」と言って、母は何度も康範少年を連れて行きました。

薬師如来の脇侍である月光菩薩からタイトルが生まれ、「母は菩薩のような存在で、無償の愛だった」という思いから、「月光仮面」が誕生しました。

今も、函館市松風町大門のグリーンプラザに「憎むな、殺すな、救しましょう」と台座に刻まれた「月光仮面」の像が建っている。

後に康範先生は、

「函館にいた少年時代。供物をホームレスに施す母の姿が、僕の人生の骨格になった」

康範先生から、私の好きな言葉があります。

「人間は正義にはなれない。しかし、正義の味方にはなれる」

森　進一

【おふくろさんのこと】

森進一さんの代表曲のひとつです。この作品もまた康範先生の〝母親の無償の愛〟から誕生しています。歌詞の一部を抜粋してみます。

お前もいつかは　世の中の
傘になれよと　教えてくれた
あなたの　あなたの真実
忘れはしない…

しかし、この名作が「歌詞の出だしを改変したことで」大問題になりました。

改変したのは
いつも心配かけてばかり
いけない息子の僕でした

康範先生は、母の無償の愛を表現した作品ではなくなり、やり切れない感情だったのでは、と推察いたします。この問題は息子さんの代で和解になりました。

【私、富岡と康範先生のこと】

私の会社は、声優出演の朗読・ドラマ専門のＣＤメーカーです。いわゆるレコード会社です。創立５周年のメモリアルＣＤ企画で、少年時代からの憧れのヒーロー「月光仮面」「七色仮面」「レインボーマン」３部作を〝聞くドラマ〟として川内康範事務所に提案をさせて頂きました。森進一歌詞事件の真っ最中でした。康範先生も入れて第１回目会議が始まりました。緊張感が漂い、先生より企画内容や各スタッフのプロフィール等、的確なチエックが続き、とても堅苦しい進行が続きました。この空気を変えなくてはと思い。ここで、「先生！僕も先生と同じ函館出身なんです」と言ました。とたんに、あの怖い顔が急にニコッと笑い「早く言えよ！函館出身で俺に頼みに来たのはお前が初めてだよ」。それからはトントン拍子に話が進み、函館の事、大火の事、お母さんの事等、初対面なのに本当に良く話してくれました。

それから2年後、月光仮面の続編の発売が決まりましたので、再度許諾を貰うために連絡を取りました。青森の病院に入院中の康範先生にスタッフの方が「函館の富岡さんが月光仮面の続編を作りたいと言って来ましたよ…」と。康範先生は、メモ用紙にか細い文字でＯＫと書いてくれました。その模様をスタッフから聞いて涙が溢れました。それから、10日後に亡くなりました。川内康範作品の最後の許諾を頂いたことをとても光栄なことと大事に心に収めております。

〝先生！　先生と同じ函館出身なんです〟と聞いた時の康範先生の少年のような〝笑顔〟が今でも忘れられません。

函館との縁（えにし）

小助川昭一

昭和34年頃、駒込駅近くの小さな印刷屋で仕事をしていた頃の話です。

その頃は、役所や労働組合などの報告書などの大部分はガリ版印刷でした。私は、その印刷屋で筆耕職人として勤務していたのですが、夕方に電報が来て、〝コンヤトマリ〟。との電文でした。「今夜こちらに来て徹夜で仕事だよ」のことで、徹夜仕事ができるように用意をして出かけていきました。仕事の内容は、ある労働組合の会合の要旨など夕方に決定した事項を翌朝の出勤時に組合員に渡すために、文章をガリ版で書くために来いとの意味でした。

この印刷屋の近所に住んでいたもう一人の仕事仲間の川村晃君と一緒に本文を徹夜で書きました。川村君は私と同じ年頃で子連れの女性と同居していました。仕事をする前に食事をしたのですが、いつも頼んでいた仕出しの弁当屋さんに私が電話を掛けて、同じものを二つと頼むと弁当屋の奥さんは「もう一つは川村さんの分か？」と聞いて来て、「川村さんは支払いが滞っているので駄目だ」と言われたものでした。「私の友達の分で私が支払うから」と言って、夕

食にありついたものでした。朝食は、店主のおばちゃんが作ってくれて生卵が付いていました。そんな職人人生を送っていました。

その川村君といろいろと話しているうちに、彼は「俺、函館に親戚がある。十字街で海産物問屋をやっており、相生とかいう家で、同じくらいの男の子いた」とのことでした。これを聞いてびっくりしたものでした。その男の子は私と一緒に机に並べていた相生君だったのです。正に奇遇でした。相生君は函中に進んだと聞いていました。何せ一クラスに58人もいましたし、道内一の金持ちである相馬家の息子もいました。川村君と相生君の接点とは奇遇と言えば誠に奇遇でした。

ある日、テレビを見ていたら、その日は芥川賞の発表の日でした。あまり文壇に興味はなかったのですが、あの有名な芥川賞を川村晃君が受賞したのです。第47回（1862年上期）のことでした。

ふと思いだしたことがありました。彼の仕事をしている机の横に住まいに似つかわしくない日記用の冊子が積み上げてあり、ある日、「その冊子は何か？」と彼に聞いたところ「ああこれは〝日記〟だよ」との返事でした。それが芥川賞受賞のネタでした。芥川賞の受賞作は、〝美談の出発〟だったと思います。

川村　晃氏

なお、私が独立して、川村氏に仕事を頼みに行くと、「助さん（私のあだ名）、仕事の原稿の下に、5千円置いていってくれ」との書き置きがありました。ご本人は徹夜作業をしてか、押し入れの上段で高いびきで仮眠中でした。

川村君は、芥川賞の受賞後しばらく10チャンネルのテレビの人生相談に出ていましたが、その後体調を崩して肝硬変で他界しました。これも30年程前の話です。

私自身、間もなく94歳になります。昔の仕事仲間からの忌中の葉書も途絶えましたが、今日我が身を顧みて、生んでくれた親、兄姉二人には会えませんが、世間様の恩情に感謝しております。

学生時代の思い出
（食事編）

千歳　芳充

私が函館を離れてから今年で46年が過ぎました。

昭和に生まれ育ち、昭和、平成と働き、令和を迎え第二の人生を過ごしています。

その間、結婚し、父になり、父、母を送り、娘が嫁ぎ、孫が生まれました。

以前は年に一、二回ほど帰函していましたが、数年前に函館の実家の私の持ち分を兄に移転したため、ここ数年は故郷に足を運ぶこともなくなりました。

ましてや今年は新型コロナウイルスで中々帰函できないため、私の函館時代の食事について記憶をたどって函館時代を思い出してみます。

朝ごはんは小学校時代（昭和37～42年頃）から高校時代（昭和46～48年頃）まで、ほとんど変わりなく、ご飯に味噌汁、烏賊の刺身、納豆（生卵入りか大根おろし入り）、焼塩鮭、筋子、タラコなど納豆以外では、海産物が多かったように思います。

烏賊の刺身は、時期になると毎日早朝にリヤカーで売りに来た採れたての烏賊の皮を剥いだものが食卓に並んでいました。母は残った身やゲソで、イカの塩辛も作ってくれました。

味噌汁の具は、わかめに豆腐（油揚げ）と長ネギ、もやしに油揚げが思い出されます。

小学校時代の昼食は、給食でコッペパンや揚げパンなど。主食はパンで、脱脂粉乳（低学年）、（パック）牛乳、鯨の竜田揚げ、シチュー、カレー汁等が思い出されます。

中学校では学校給食はなくなり、私の昼食はほとんど毎日売店で買ったパンでした。

高校では学生食堂があり、ラーメン（塩）やカレーライスを食べていました。

父母はニンニクが苦手だったのか餃子は食べたこともなく、成吉思汗も高校の部活の遠足で初めて食べました。

夕食の思い出は、小学生時代から高校生時代にかけて自分の嗜好が変わったせいか思い出す料理も多くなります。

普段の夕食では、塩鮭、ホッケの開きなどの焼魚料理（秋刀魚や鰯の思い出はあまりありません）。天ぷら、カレーライス、オムライス、クリームシチュー（牛乳たっぷりでトロミは少なかったです）、豚肉のソテー（塩焼き）、ポテトサラダ、宝来町の電停前に今もある「阿佐利」肉店で買った焼売、コロッケなどを思い出します。

焼売を辛子醤油で食べることを知ったのは、ずーっと後のこと（上京してから）で、その当時は、肉屋さんで買ったものにはソースをかけて食べるものだと教えられ（？）、焼売にソースをかけて食べていました。

鍋料理では、味噌仕立ての石狩鍋、塩風味の三平汁が懐かしく感じます。

父の誕生日には、父が隻眼だったせいか、父の滋養のために松風町の「入川はいや（？）」という日本料理屋で「鯉の洗い」や「鰻のかば焼き」を食べた記憶もあります。

私の誕生日には、母が私の好きな鳥のもも肉を焼いてくれました。

クリスマスは、正月を控えているためか、「家はキリスト教ではないのでクリスマスは関係ない」と言われ、特別な料理はなかったと思います。

年末には、母方の祖父の家の餅つきを手伝い（見学）に行き、お供え餅や切り餅、草餅などを食べました。

正月料理では、お節料理のほかに、鮭、鰊などの飯鮨、鯨汁（塩鯨・鯨の脂身を何回も何回も熱湯で油抜きし、大根、人参、牛蒡、里芋、長ネギなどをけんちん汁風にしたもの）を思い出します。

今の食生活から思うと、普段はとても質素な食生活だったと思いますが、母も他界した今となっては懐かしい料理ばかりです。

石狩鍋

「七飯町発～大阪～横浜」
社会人第一歩の思い出

続　薫

昭和39年3月。就職先（M電器）の大阪府門真市へと函館を0時過ぎの青函連絡船で家族・同期生・友人の皆さんに五色のテープで見送られて本州へと出発しました。早朝に青森駅に到着。息つく間もなく大阪行きの特急「白鳥号」に乗り継ぎ一路大阪へと向いました。夜8時過ぎに指定された旅館に無事到着しました。

何と函館を出発してから約20時間。1200㎞余りの行程で、今では考えられないような交通手段で行ったんだなと懐かしく思い浮かべます。

就職先を決めるにあたり、あまり道内だとか、こんな企業にとかのこだわりもなく、何とか早く決めなくてはとの思いが強く、今考えると冒険的なことをしたもんだなと我ながら感心をしてます。

また、同時に同期のO君・Y君とも一緒に入社することで、様々な不安を一掃させてくれたと思っています。

さて、3月18日の入社式には、何と全国津々浦々より700名が集まり、周囲を見ると皆な親父のような顔をしており、腰が引ける思いをしたことを鮮明に記憶しています。（田舎者で小心だった！）新入社員全員は寮生活で、一カ所200名程ずつで、一部屋4人の集団生活でした。まず大阪での生活でビックリしたことが三つ、①暑く30度以上、②湿度が高く60％以上、③ゴキブリなる〝カブト虫〟のような物がゾロゾロ。何と大変な所（地）に来たなとビックリ仰天。

さらに部屋のベッドは鉄で組んだ二段式で、いつも〝ゆらゆら〟で「揺りかご」のようでした。

夏の夜は常に蒸し風呂のようで窓は開けっ放し。持って行った〝蚊帳〟が大変重宝しました。

なお、日本の社会経済は、「東京オリンピック」や「東海道新幹線」「名神高速道路」の開通と産業界では三種の神器（テレビ・電気冷蔵庫・電気掃除機）やカラーテレビ・クーラー・自動車の「3C時代」へと景気も徐々に上向き始めました。

好況な経済環境でなかったため、入社前半は工場、後半は販売店での実習を経て、10月に各地事業場（職場）への配属辞令を受け、私は横浜勤務となり、11月21日、初めての新幹線「こだま号」で配属地へ向かい再び指定の寮で生活を始めました。

大阪と異なり横浜は、港町（貿易港）。近郊には漁業基地や魚市場が何カ所もあり、函館とそっくりで、一番は、〝水〟が美味いことでした。すっかりこの横浜が気に入り、なんと55年も住むに至っています。今や生粋の「浜っ子」を自認してます。

勤務先の特徴について少し触れますと、毎朝順番で3分程の所感発表なるものがあり、年に4回程順番が回って来ます。50～60人の前でお喋りをするのでかなり緊張し、慣れるまで足元が震えることも度々ありました。今、思うと大勢の人の前で会話する訓練に大変役立ったと思ってます。

また、勤務は営業職種で、一週間に4日は地方出張に出掛けており、かなり鍛えられたものです。

趣味は、スキーに熱中し、新潟・長野・群馬・福島県の各スキー場に足（スキー）を運び、幾つかのライセンスを取得する等、楽しい青春時代を過ごしました。

後期高齢者となった現在は、運輸会社の営業支援と道南会・自治会等の社会貢献活動に励んでいます。

以上、新社会人時代の序盤を思い出しながら断片的で雑な内容の寄稿となりましたこと、お詫び申し上げます。

新年あけましておめでとうございます

朝倉　敏夫　浅野　允侑　石戸　六男
泉　龍夫　今井　雅子　岩村　昌治
大畑　徹夫　岡本　信三　小山　光
笠川　雅彦　金子　忠雄　川瀬　俊吉
川守田礼子　菊池　紀邦　木村　征
小島　幸子　小助川昭一　小林智恵子
小山　和彦　郷内　繁　酒井　哲美
佐々木俊克　佐藤　弘欣　沢株　尚子
沢株　正始　島田　瑞子　白川　正広
新谷　義克　神　れい子　末永　昌子
菅原　大作　須藤　珠実　高橋　厚子
高橋　順吉　千歳　芳充　続　薫
富岡　信夫　鳥居　玲子　中村　隆俊
新山　春一　沼崎　貞良　沼崎　茂子
根来美和子　比嘉　裕子　檜森　兄元
福地　史人　古井　勝春　本間　和吉
松田　州平　松田　昇　道下　佳拓
薬袋　泰　南谷　光一　三村　寿雄
森本　貞子　山田　克明　山田トミ子
山本　久子　山本　明博　山本眞里子
横井　透　吉野　俊郎　和田　史郎

「津軽海峡冬景色」のあの時代から

山本眞里子

もう定かではないほど時間が経ってしまったけれど、20代前半に愛知県のある企業に就職した私は、年末に故郷・函館に帰郷するのが何より楽しみでした。

まだ飛行機を使うのは高値の時代でしたから、東海道新幹線で名古屋駅から東京駅へ。そして上野駅へ向かい、上野駅前の大食堂で早めの夕食を済ませて、夜行列車で青森に向かったものでした。

多くの先輩諸氏もこのような経験をされて故郷へ帰郷されたことでしょう。

上野駅で乗った列車が青森駅に着くと、冬の夜のホームには雪が積もっていて、雪を踏みしめながら、ホームの立ち食いそば屋に飛び込み、身体を温めて、一息ついてから雪景色の青森の街を、うす暗い中でどんな街なのかと横目に見ながら、青函連絡船に乗り込んで行きました。

朝方、連絡線の中で「函館の女」の曲が流れてきます。いよいよ雪を冠った函館山が青い海の向こうに近づいてきた合図の曲でした。船尾からは津軽の山々が白い帽子で見送ってくれているような津軽海峡の冬景色が見えています。

船内の人々は、下船口に並んで重いトランクを持ち上げたり下ろしたりしながら待ち遠しそうにして桟橋に着くと急いで函館駅のホームに向かって行きます。おそらく列車に揺られて、また北海道の奥地へと向かって行くのでしょう。

冬の津軽海峡を連絡船で往復していた時代には、青森駅から上野駅までの急行券が取れなくて満員列車の中、長時間立ったまま上野駅まで来たこともありました。

あれから50年後、東京駅から新幹線で青函トンネル抜けて新函館北斗駅に到着するのは普通のことなりました。

1年前、若かりしあの頃横目で見て通り過ぎた青森の街に行ってみました。

駅前の街は賑やかで、居酒屋では津軽三味線の華やかな音色が流れ、外国人の一団もにこやかに楽しんでいました。

ドライブで行った竜飛岬の歌碑の前では『ごらん　あれが竜飛岬　北のはずれと～♪～♪』と津軽海峡を眺めながら大声で唄いました。

交通機関が便利になり、国内外から大勢の人々が旅を楽しむ時代になりましたが、今年は新型コロナウイルスのせいで世界中の動きが止まってしまいました。一時期、北海道のコロナ感染者数が減って安心していましたが、冬が近づくにつれて感染者数が増えてきました。ことに札幌市や旭川市での感染者が多く、心配な状況です。

早くコロナが収束して新幹線の窓から津軽と函館山の雪景色が見たいものです。

函館山をバックにした青函連絡船・檜山丸

マスク不要の農園通い

昭和22年青柳小入学
昭和28年千代ケ岱小卒業
菊池　紀邦

師走に80歳になり、お陰様で私もコロナに負けることもなく新年を迎えました。

わが農園は、家より5㎞で、標高600㍍の甲府市郊外の丘陵地にあります。25年前にわずか1反歩（300坪）で始めましたが、隣接農家の高齢化に伴い、現在は5名の仲間で耕作、2反歩（600坪）に膨れあがっております。

毎年春にはジャガイモ（種芋は今金町や大樹町から取り寄せ）や長ネギ、夏にはナス・キュウリ・カボチャ・トマト・ゴーヤ、そして秋はハクサイ・ダイコン等を収穫します。さらに、越冬させるタマネギ・ニンニクも植え付けます。

最近は、イノシシやシカも出没しますので、周囲300㍍に防護柵を張っています。さらにテンやハクビシンなどの小動物も訪れ、オミヤゲ（糞）を置いていきます。野生のキジも増え、野菜の被害も出始めております。

野菜作りは、戦後、函館山の麓で馬鈴薯や南瓜栽培で食糧難を凌いだノウハウが役立っているのではないかと自負しています。

南に富士山、西に南アルプス連邦の標高ベストスリー（富士山・北岳・間ノ岳）を眺めながらの野菜作りは、マスク無しの癒しの日々を過ごしております。

コロナが治まりましたら、ぜひ美味しい空気を思う存分吸いにお出かけ下さい。

農園付近からの富士山（手前は甲府市街地）

土方歳三に思う

（幕末期の幕臣　新撰組副長
蝦夷島政府陸軍奉行並）

岩村　昌治

コロナ禍で大変不自由な生活を強いられる皆様へお見舞い申し上げます。

さて、私は望郷の念に駆られながらの思いから明治初頭の事件から考えてみました。五稜郭にまつわる新撰組副長『土方歳三』のスピリッツ（精神・魂）に興味があります。

土方歳三は、天保6年（1835）～明治2年（1869）多摩（現・東京都日野市石田）豪農に生まれた。

14歳～24歳の10年間奉公に出ていたと考えられ、17歳の時には、松坂屋上野店の支店で江戸伝馬町の木綿問屋・亀屋（かめだな）に奉公していました。その後、歳三は実家秘伝の「石田散薬」を行商しながら剣術の修行を積んだ。剣の修行を重ねるうち、近藤勇と知

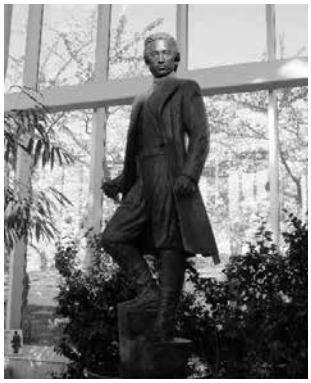
土方歳三・座位全身

箱館戦争の肖像

り合い天然理心流・試衛館に入門。

文久3年（1863）2月、天然理心流の仲間と江戸幕府14代将軍・徳川家茂警護の浪士隊に入隊。同年8月18日の政変後、浪士組から壬生浪士組へ。活躍が認められ、新選組が発足。元治元年（1864）6月5日池田屋事件で尊皇攘夷を目論む多数の長州藩士、土佐藩士を殺傷、捕縛を成し遂げ、破格の恩賞を受け、天下に新選組の勇名が轟いた。新選組の内幕は定かではないが、土方歳三が『局中法度』を制定して武士道を貫く激しい隊規を課した。鬼の副長、土方歳三は容赦ない粛正を行います。

慶応3年（1867）6月、幕臣に取り立てられ、同年10月14日徳川慶喜が将軍を辞する大政奉還。江戸幕府は事実上終焉した。慶応4年（1868）1月3日鳥羽伏見の戦いに始まる戊辰戦争が勃発した。新政府軍に敗北し、江戸へ撤退。その後、再起を図り流山へ。近藤勇は投降し、その後板橋で処刑される。一方、土方歳三は会津を経て転戦を重ね、北へと進む。荒れた幕末を引きずる旧幕府軍の官軍に対する抵抗、榎本武揚率いる旧幕府軍に仙台で合流する。奥羽越列藩同盟が崩壊し次々と新政府軍に降伏した後、榎本らと共に蝦夷地に渡った。



ブロンズ像

戊辰戦争最後の箱館五稜郭の防衛戦へ。蝦夷地の鷲ノ木へ上陸後、歳三は間道軍総督となり、五稜郭へ。箱館・五稜郭占領。歳三は額兵隊などを率いて松前へ進軍して、松前城を陥落させ、残兵を江差まで追撃して江差を無事占領した。その後、榎本武揚が「蝦夷共和国」（本陣・五稜郭）総督となり、歳三は幹部として陸軍奉行並となり、箱館市中取締や陸海軍裁判局頭取も兼ねた。

明治2年（1869）4月9日、新政府軍が蝦夷地・乙部に上陸。歳三は二股口で新政府軍の進撃に対して徹底防戦し、二股口では連戦連勝したが、もう一方の松前口が破られ、退路が断たれて、包囲される危険性があったため、やむなく五稜郭へ帰還した。同年5月11日、新政府軍の箱館総攻撃が開始され、弁天台場が包囲されて孤立。歳三は救出のためわずかな兵を率いて出陣。箱館一本木関門を守備し、七重浜から攻める兵に応戦。脱走してくる味方を「我この柵にありて、退く者を斬らん」と宣告した。馬上にて指揮を執り、乱戦の最中、腹部に銃弾を受けて落馬したとされる。享年35歳。諸説あるが、その一週間後、榎本は降伏した。最後は、死の直前、小姓の市村哲之助に遺髪と写真を日野の実家に届けてくれと命じた。市村は日野宿の佐藤彦五郎（義兄）へ無事届けている。

一本木

土方歳三は、時代の潮流に押し流され、歴史の藻屑と消えたとも言えるが、江戸時代の末期の混乱に乗じて逃げる者や寝返る者もあったが、歳三は頑固に志に向かった。

幼少期は10人兄弟の末っ子。やんちゃで元気な子供だったようである。

侍に憧れ、剣の道を進み、近藤勇と共に新選組を率いて、近藤亡き後も最後まで幕府のために戦い抜いた歳三は本当に理念を全うしているのか。幕府の凋落が生んだ侍とも言えるが、写真から思うに、髪を下ろし、洋服も凛々しく、髭も落としてなんとも現代的とも言えるイケメンである。やや緊張気味に握った拳は洗練された雰囲気が漂う。幕末の京都においても町娘のたちの憧れの的だった。新選組の屯所に届くファンレターは自慢の種であった。

土方歳三の思想は、浪士の当時のスローガン「尽中報国」。国家に忠誠を尽くし、諸外国から国を守る。これは「尊皇攘夷」ではと思わせる。最初は朝廷と幕府の関係は良好であった。しかし、徳川幕府が蝦夷から開国に向かい、「尽中報国」の思想は崩れ去った。

高幡不動・土方歳三銅像

新選組は、土方歳三の「局中法度」による【士道】にある規律で隊士を縛る。徳川家を支える親藩・譜代の大名が状況が悪ければあっさり寝返ることに武士道に反すると言い、志を変えずに人としての正しい道を守る戦いでの信念を言っている【節義】という考えであった。

歳三の思想や性格などに好き嫌いはあると思いますが、熱血漢、質実剛健とも言え、情熱的な硬派ではないか。意思を貫き、覚悟を決め、一心不乱に戦いに挑み、全うしたものと思い、共感を覚える。とても保守的ではないか。思想や理念は共感を受ける者もある。

最後に、剣の達人で戦いに生きながらえたのか、かなり戦略的能力も持ち合わせていたのか。高い能力を時代が変われば生かせたと、残念な魅力のある人物かも知れない。

青函連絡船の思い出

中野川小学校出身
楢木　久澄

33年、もはや戦後ではないと言われたその年に某会社の函館支店に入社した。一年半後の秋10月に東京本社勤務を命ぜられ、初めて連絡船に乗船する機会を得た。

思い出を秘めた女の姿がこの唄にまた泣くのです
それは所詮行かせねばならない人だった
夜のとばりが波止場に静かに下りる頃
ただ一筋のテープに万感の思いを込めて
きっと帰る
あなたを描きながら
さようなら
それも言えなかった
あなたの笑顔が私の涙が言わせてはくれなかった
あなたのいた船消えていった
連絡船の唄
♪思い切れない未練のテープ
切れて切ない　女の恋心
汽笛ひと声　汽笛ひと声
涙の波止場に　私ひとりを
捨ててゆく　連絡船よ

誰もが知っている戦後の大ヒット曲　菅原都津々子の「連絡船の唄」です。港と船は絵になります。

さて、乗船名簿に名前を書いてタラップを上り初めての乗船、夢と希望と不安の入り混じったあの時の気持ちは今もはっきりと思い出します。

銅鑼の響きに合わせてボーとむせび泣くような汽笛が鳴り渡り、蛍の光が流れる中、船は静かに岸壁を離れます。皆さんも帰省の折に経験していると思いますが、函館港の出港は五色のテープが乱舞して華やいだ雰囲気ですが、とはいえどどこか寂しい沈んだ光景。一方、青森港は、北海道への観光か何故か浮き立つ賑やかな光景です。

東京在勤中は、お墓参りの夏休みか、正月休みに年に一度は帰省しておりました。当時は蒸気機関車でどんなに窓を閉め切っても油煙で顔は真っ黒になります。待ちに待った青森駅　に到着するやいなや一目散に連絡船めがけて走り乗船します。

函館の勤務中に知り合った知人が連絡船の機関員をしており、その方に頼んで船員専用のお風呂に特別に入れてもらいました。「函館に着くまで入っていていいよ」と言われ、ステンレス製の5～6人は入れる湯船に浸かったあの感動は、長旅の疲れもいっぺんに吹き飛ぶ超贅沢な一時でした。また、知人が非番で乗船していないときは、「彼と友達でいつも風呂に入れてもらっていた」と言うと、「あーそう、じゃ入っていいよ」とどの船員さんも快く風呂場に案内してくれました。従って、私にとっては連絡船イコール風呂なのです。さっぱりした顔で船室に戻ると、誰もが「お風呂に入ったんですね。お風呂はどこにあるの?」と毎回聞かれるのが常で、帰省するたびに大いなる優越感を味わう時でした。

青函連絡船は、北海道と本州を結ぶ大動脈。北海道強いては日本の発展を支えてきたあの時代のインフラの雄でした。貨客船の就航は、洞爺丸・摩周丸・羊蹄丸・十和田丸・大雪丸・八甲田丸の6隻でした。昭和29年の台風15号で、洞爺丸が沈没。国内海難史上最大の大惨事で、1167人が死亡。生存者はわずか159人。これを機に北海道と本州を地続きにとのトンネル掘削の機運が高まりました。

青函連絡船・羊蹄丸

「青函トンネル」構想から40年、昭和29年の洞爺丸沈没から10年後の昭和39年に着工。工期24年、総工費6900億円（当時）の巨費を投じて、昭和63年に開通しました。明治に入って以来、海峡の重要な交通機関であった国鉄青函連絡船も青函トンネルの開通によってその地位を譲り、当時の名残を留めるメモリアルシップとして、函館港に摩周丸が、青森港に八甲田丸がかすかに往時の姿を残しています。余談ですが、トンネル工事24年間に37人の方が殉職されました。この数字を多いとみるか少ないとみるか。ご参考までに、黒部ダム171人・奥只見ダム117人・佐久間ダム96人の殉職者があり、いかに青函トンネルでは少なかったか。とはいえ先人たちの尊い努力と犠牲によって成り立ち、今私達が安全を享受しています。その御霊に手を合わせ、連絡船の思い出からちょっと話が横道に逸れましたが、連絡船にまつわる思い出のひとこまを書きました。

ちなみに、連絡船に乗っていた知人は、あの日は非番で今も元気で親戚以上のお付き合いをしています。

もう一つ、洞爺丸で亡くなられた亡霊が時に七重浜・上磯辺りに出るとか。私がお盆帰省したときに体験したお話を、機会がありましたら次回…。

原風景
〝眼下に見る函館港〟

佐々木俊克

私の原風景は、基坂から眼下に見る函館港です。私の出生地は函館市亀田町5番地（元市電ガス会社前付近です）。間もなく父の仕事が渡島支庁勤めになり、基坂にあった渡島支庁の附属家に住み変わりました。ここに昭和25年から約5年間住みました。

「前は海（函館港）、後ろは山（函館山）」に挟まれた基坂の高台です。朝早く渡島支庁の正面の門の前で真っ赤に燃える日の出を見つめた記憶があります。家の裏側は函館山の斜面で部屋の窓を開けると大きな防空壕がありました。父は、言うことを聞かない子はこの穴の中に入れるぞと言っていたことを覚えています。

渡島支庁舎（今は元町公園）と文書庫（現存されている）は遊び場で、支庁舎二階に上がるとアーチ型に飛び出したベランダから見る函館港にはいつも大小の船が係留されているのがよく見えました。このベランダで絵を描いている人（職員さん）が数多くいました。この場所は描く人にとっては確かに絶景ポイントだったようです。

支庁舎の裏には「函館区公会

令和３年度新年総会・懇親会の中止のお知らせ

令和３年１月吉日

北海道道南会の皆様へ

北海道道南会
会長　藁袋　泰

拝　啓

令和３年の新しい年が始まりました。皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より北海道道南会の諸活動にご協力賜り、誠にありがとうございます。

さて、本年２月６日（土）に開催を予定しておりました新年総会・懇親会ですが、新型コロナウイルスの感染状況が改善されることがなく、むしろ拡大傾向が続いております。

そこで、大変残念ですが、今回は新年総会・懇親会の開催そのものを中止することにいたしましたので、お知らせいたします。

なお、今後、感染状況が改善されることがあれば、月例行事を始め、各種行事を積極的に実施したいと考えております。時節柄お体ご自愛下さい。

敬　具

函館基坂

堂」、庁舎正面玄関の門前の広場は遊び場で一日中ここにいたような記憶があります。ここから坂の下は右にイギリス領事館、左に海難審判所、市立函館病院。市電まで下りてゆくと日本銀行函館支店、㈱相馬、海まで行くと海上自衛隊函館基地です。私の遊びのテリトリーは函館区公会堂から海上自衛隊までの縦のゾーンでした。

基坂では坂を行き来する人々が多かった。ほとんどが渡島支庁舎と函館病院に用があった方々だったのでしょう。車で来られる方は少なかったようで、とにかく人が多かった。

父は支庁直轄の現業部門のひとつ函館土木現業所勤務です。そこでは所長付きの運転手でした。当時は国産車がまだ少なく、公用車はアメリカ車がほとんどで父は〝ビュイック〟という車で稀に乗せてもらえることもありました。

函館山のふもとの坂は冬になるとソリ滑りの恰好の場所で、父が作ってくれた世界でたった一つのソリで遊んだものでした。バス通りを横断するのも恐れることなく滑っていました。

冬のある時、雪でテカテカに固まった坂をゴム長靴の底に縄を巻き、リンゴ箱を積んでリヤカーを引いて上がってくる老人がいた。ゆっくり、ゆっくりとあとずさりしないように足を運んでいる。じっと見ていた私はいつかリヤカーの後ろについて押していたことがありました。非力なガキが押したところで役立つはずはなかったのですが、〝何かに動かされた〟のでした。

私の姉は愛宕中学校へ通い、後に白百合学園へ進学。兄は愛宕中学校から函館商業高校へ進みました。

５歳の時、渡島支庁舎は五稜郭公園のそばに移転したので私たち家族も五稜郭町の〝官舎〟に引っ越し、翌年千代田小学校へ入学しました。

今でもときどき「元町公園」に行くと、〝原風景の中で体感した数々のこと〟が思い出されます。

訃報

濱光徳さん
令和２年８月29日　死去
75歳

謹んでご冥福をお祈りします。

編集後記

◎昨年は、１月の始めに発生した新型コロナウイルスが大流行し、社会生活の大部分が制約されました。感染者数は、比較的小さな山の第１波、やや大きな第２波の流行。そして、全国的に感染者数が増加し続けた第３波の大流行の結果、年末年始の日常生活を始め、旅行などを含めた行動が大きな制約を受けています。

◎こうした結果、道南会では月例行事や夏季懇親会の中止等々、諸活動が停止状況にあります。また、道南会に限らず、各地のふるさと会や同窓会なども中止されました。その結果、会報を通じて皆様にお知らせする記事などが皆無の状況となりました。

◎今号では、皆様からのご投稿を中心に作成いたしました。

◎なお、これからも会報では、皆様の身近な話題などを中心にお伝えしたいと思っております。引き続きご投稿をお願いいたします。

会報「道南」
３年・新年号・通巻73号
発　行　令和３年１月１日
発行所　北海道道南会事務局
茨城県取手市西
1-6-C-907
藁袋　気付
印刷所　富士製版印刷㈱
世田谷区下馬4-17-17